

日 時：平成24年7月13日（金）18：30～20：30

場 所：花川南コミュニティセンター 多目的ホール

参加者：32名

【 当 日 の 内 容 】

18：30

- ◆ 開会

18：30～18：35

- ◆ 情報取得手段についての情報提供（事務局／石狩市 総務部）
 - ・石狩市メール配信サービス、緊急速報メール
 - ・石狩市の情報取得手段

18：35～18：50

- ◆ 本日の進め方の説明（事務局／株ドーコン）
 - ・グループ別意見交換の進め方

18：50～20：10

- ◆ グループ別意見交換
 - ・前回の意見交換結果の確認
 - ・いろいろな観点での「日頃の備え」を検討

20：10～20：30

- ◆ グループ別意見の発表
 - ・各グループ代表者から発表

20：30

- ◆ 閉会



◆グループ別意見の概要

Aグループ（6名）

- ・水や食料の備蓄・持ち出し準備など、個人レベルだけでなく、事業所単位、町内会単位など、様々に行っている。
- ・町内会では防災訓練を年に数回行っている。学校、保育園での避難訓練は、昨年の東日本大震災以降、津波を想定したものとなるなど進化している。町内会や学校単位の訓練だけでなく、地域住民も含めて一緒に行う訓練も必要である。
- ・みんなで行動するためには、避難の仕方、無線の使い方などの情報を共有できるマニュアル的なものが必要である。
- ・子供に命の大切さを教える災害教育も重要である（保育園で始めている）。
- ・近所でお互いに助け合うためのコミュニケーションも重要である。



Bグループ（8名）

- ・避難経路や避難場所、その環境などを事前に把握しておくことが必要である。
- ・各家庭での防災グッズの備えのほかに、保育園での乳児のための備蓄品（ミルク・さらし）なども必要である。
- ・草の根レベルでの防災教育を地域で行う必要がある。
- ・ペットの避難を考慮した避難場所内の備えが必要である。
- ・災害時の携帯ラジオの配布も有効ではないか。
- ・防災センターのホットラインの設置など情報網の確立が重要である。



Cグループ（6名）

- ・ 備蓄については、水・食料・防寒用品など個人で備蓄できるものと、発電機・ストーブなど地域が備蓄するものを区分けしておくことが重要である。
- ・ 自動販売機やスーパーでの在庫など、備蓄庫以外の水・食料等も緊急時の備蓄品と想定しても良いのではないか。
- ・ 地域の連絡会議やDVD（避難方法・シミュレーションなど）の配布など、地域ごとの情報を共有することが必要である。
- ・ 既に一部の町内会では、避難訓練など統一的な取組みを行っている。
- ・ トリアージのため、要支援者がいることを知らせる表示を各戸に配布し、災害時に玄関に貼ってもらう等の工夫が必要である。



Dグループ：（6名）

- ・ 災害別の危険度を知った上で、それぞれの災害に応じた避難方法や避難先を確認するなどの情報共有が必要である。
- ・ 避難訓練は、事前に実施の時期や内容に関する連絡をしないなど、リアリティの高い状況で避難経路を確認するなどのシミュレーションが必要である。
- ・ 夏・冬、昼間・夜間、健常者・災害弱者など、それぞれの状況や対象の違いに応じた災害の怖さや避難の難しさを知っておくことが重要である。
- ・ 社会福祉協議会が配布している「救急医療情報キット」以外に備蓄セットの用意が必要である。
- ・ 緊急時の避難場所や連絡方法などを家族内で話し合って共有化しておくことが重要である。
- ・ 災害が発生すると、水道・下水道・電気・電話回線・インターネット（無線・有線）などが止まるため、これらライフラインの寸断を想定した実質的な対策を図る必要がある。
- ・ 町内会での日常的な近所付き合いがなければ緊急時に機能しない。お祭りなど通常の交流活動のほか、社会福祉協議会による地区単位の福祉活動の充実も重要である。



Eグループ：（6名）

- ・器（地域での受け入れ体制、避難所の確保など）と中身（組織、備蓄品など）の両方が必要である。
- ・最大・最悪の被害を想定し、現状で何が不足しているのかをしっかりと把握する必要がある。
- ・想定や不足している状況を踏まえて、個人ができること（水、食料、防寒対策用品、ラジオなど）を考え、実行すべきである。
- ・各地域で訓練を繰り返し行い、現状の「不足・課題」を知ること、「機能する」組織作りにつなげていくことが重要である。
- ・行政のすべきことと市民のすべきことを一緒に考え、お互いに責任を持って連携していくことが必要である。



	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<p>【命の大切さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害教育“命の大切さ”を小さい子でも知らせていく。 ・日頃の家族の話し合いで災害時の避難場所（落ち合う所）を確認 ・災害がおきた時の避難場所確認。家族のメンバー、仕事、学校に行っている時間帯であればどこに避難しているかを家族の者が知っているべき。 <p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所（向こう三軒両隣）の人と「お互いに助け合おうね。」と話し合っておく事。 	<p>【訓練の進化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波を想定した避難訓練を実施した。（昨年）今年度も9月に訓練あり。※昨年と違う方法を検討中 ・グラウンドから3Fへ ・避難訓練の見直し。津波の設定。1次避難→2次→3次と ・町内会で防災訓練を年3回程行なっている。 ・自主防災組織を設置している。 ・救命訓練。担架競争。防災グッズの点検 ・町内会としては自主防災訓練講習会 ・自主防災組織活動のための組織図作製 ・防災資機材の正しい使い方を習熟しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織をつくったがどこまで機能するか疑問 <p>【情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報を知る。地形、地図、過去の災害。 ・町内会に加入していない世帯への情報、支援ができない。 	<p>【情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災無線や住民に伝える手段はできているのだろうか。 <p>【地域と一緒の訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が避難場所となるので、地域の方と一緒に訓練も必要ではないのだろうか。
2) 準備 する	<p>【転倒防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家具等の倒壊防止。消火器の備え。 <p>【ストック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル20本準備→風呂、洗濯などで順に使う。 ・常に缶詰を準備しており、古い物を先に食べる。 ・2ℓの水のペットボトル6本を家のあちこちに置いてある。 ・冬に停電になっても使える暖房器具がある。 <p>【持ち出し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水、電池、ラジオ etc 緊急に備える。 ・貴重品の持ち出しに備えている。 ・ソーラー懐中電灯がある。 	<p>【ストック】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常食の確保とどこにあるかを知っておく。 ・備えの見直し。内容（食品、その他）、置き場所（分散させた。） ・町内会の非常用薬の備蓄品（町内会館） ・避難場所に備蓄ちゃんとあるのか？ ・市の備えはどの位？毛布とか、乾パンとか <p>【要援護者の情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の老人の確認等 ・弱者と言われる人の名簿を作成しておく。 	<p>【みんなで行動するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通認識、1人→全員へ 	<p>【みんなで行動するために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有 <p>【心得マニュアル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防や警察、市が考えている「マニュアル」的な物（避難の仕方など）を作る必要がある。 <p>【要援護者の情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要援護者への避難について地域で検討する必要がある。
3) その他		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の鍵は誰があける。 	<p>【避難所不十分】【避難後の治安の不安】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所が遠すぎる。 ・町内会館はあるが使えるか？ 	

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<p>【避難】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族での避難所の確認（どこに逃げるか） ・避難先の環境把握 ・避難経路 <p>・冬に地震があり津波発生を想定し、乳児、幼児の避難訓練を3月に実施した。（保育園）</p> <p>・3, 4, 5歳児に地震があった時の避難の仕方の紙芝居を読み聞かせている。（保育園）</p>	<p>【学習・訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草の根活動レベルでの防災教育、防災教室。 ・地域連携した避難訓練の実施 <p>・町内会からの連絡体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の規模、大きさによる市街地への距離的影響（情報を知る。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の防災意識高める対策。例えば防災センターの設置 <p>【水の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現水道施設一部地下水残す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・心構え。家族の災害時避難、集合場所の特定。家族間の安全時の掲示増所の特定 </div>
2) 準備 する	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の耐震化の推進 <p>【備蓄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各家庭での防災グッズの備え。非常食の備蓄。 ・幼児の避難のためにさらしを用意した。（おんぶする為に）（保育園） ・水、お粥、ビスケット、パンなどの非常食を備蓄している。赤ちゃんのミルクも。（保育園） 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬期の除雪の充実（避難経路の確保） 		<p>【防災環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所の増設。 ・避難経路の整備。 ・雨水排除、施設の早期整備（河川の維持管理） <p>【情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所、防災センター（本部）のホットラインの設置 ・地域への情報、サイレン、拡声器（大型）の設置 <p>【避難場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児、幼児が安全に避難出来る場所を設置して欲しい。 ・飼育（ペット）動物の収容、安全場所の特定 <p>・自衛隊への要請手段の簡略化</p>
3) その他				

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<p>【防災知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人として災害や防災についての知識や情報の蓄積 <p>【防災訓練・避難訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難訓練、地震、火災、津波も必要？（南小） 避難所運営訓練。秋と冬（寒中）1泊（避難所）→発電機と灯油ストーブのみ 防災フェア。防災訓練。担架組み立てと活用。縄ばしご訓練など 救命講習会想定時間。現在 200 名→3時間講習（防災会）、消防署 	<p>【防災訓練・避難訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内会で消防署と連携して防災運動会を例年行なっている。→消火器の使い方。AEDの使い方。防災機材を使った運動会。 年1回の防災訓練行なっている。消防署参加（町内会） 見学、研修。防災センター見学。泊原発など2年に1回（町内会） 学校として（紅南小）避難訓練の実施。備蓄物資の保管。市と直通（無線）→食料、簡易ストーブ <p>【連絡・情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災（連絡仕組み）グループホームより災害時のTELにて連絡来る。2ヶ所より→町内会（会長） 夜間花火他公園での騒がしい等の時の出勤（町内会が担っている） 市の災害発生時の広報及び全世帯の連絡→実際には聞こえていない。改善が必要。 <p>【防災リーダー】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災リーダー認定→自主防災会で認定 要支援者登録制度（防災会） 	<p>【啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 無関心層への啓発 	<p>【避難場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難場所の市での設置 →学校→夜はどうか？容量の問題 →津波の際のとりあえずの避難施設が必要 <p>【防災訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> 24年度後半に防災訓練を実施する予定である 町内会夏祭り時に炊き出し訓練を行なう予定 市としての防災対策の早期決定 防災訓練の方法などの研修 防災リーダーの養成
2) 準備 する	<p>【備蓄】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災無線はチェックして修理した 	<p>【備蓄】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内会として市から防災資機材は貸与されているが個人としていつも準備している物、町内会として何を準備すると良いか。→何を用意していいかわからない。数量は？←情報不足 AED1台（藤学園） 備蓄がわり→自販機の飲み物が使える 防火、防災管理者2名（藤学園）防災訓練も→各種ノウハウを蓄積 <p>【ペーパー発行】</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災だよりの発行（防災会） 	<p>【備蓄】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水、食料、防寒類は各個人が出来るだけ設置しておく <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・防災非常用として毛布、防寒、ビニール、携行折りたたみ飲料容器及び携行照明器具携行ちり紙、手ふきんを最小限準備せよ。</p> </div>	<p>【備蓄】</p> <ul style="list-style-type: none"> 救命胴衣、発電機、毛布、ストーブ等の準備。地域として <p>【情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区ごとの情報を共有できる。機関（連絡会議） 災害シミュレーション地域の様子。避難経路、方法等の周知。各戸へのDVD配布 <p>【要支援者対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家の玄関に表示「要支援者在宅」トリアージ表示板（→緊急時に貼ってもらう） ⇔個人情報との関係でどうか
3) その他		<ul style="list-style-type: none"> 防災マップがないのでは？電話帳とセットではダメ 		

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	<p>【家族】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族での防災に関して話し合いを持つ＝共通理解 ・防災食の日（乾パン食べる）1日/回 ・昼間+夜間。避難訓練（もっと現実的に） ・防災学習、消防の方を招いて 	<p>【町内会単位+避難ルート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害別の危険度把握→周知 ・町内会単位で実際の防災訓練をやっている。想定している。300名くらい ・消防が町内会に講師派遣 ・防災訓練（2時間）講義 ・石狩南高校が避難場所 体育館 1000～1500人 暖房、シャワー、トイレ、キット ・避難場所まで歩いたが①高齢者が大変②キャパシティ ・実際に即した訓練。リアリティある。抜き打ち。 ・避難場所までの動きの訓練 ・非常食を食べてみる！（町内会） ・回覧板などでの情報発信（石狩市での町内会） （小地域社協） 		
2) 準備 する	<p>【個人・家族の情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅冷蔵庫に入れる。（救急キット）社協で配布 <p>【備蓄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズを準備する。 ・持ち運べる入れ物←水、食料、寝具、ラジオ、電池、常備薬、 ・地図、紙、ペン、現金 ・家族の情報メモ（氏名、性、生年月日、血液型、携帯、アドレス） ・備蓄（3日分）→足りない。 ・自宅用の救急セットの学習、アドバイス <p>【冬季】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除雪についても道路に面した所と窓の側もするように気をつけている。（大雪で逃げる。） ・高齢者の自宅の雪かき（割れない高さ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・怖さを知る。怖さを体験する ・町内会備蓄で毛布、発電機）50枚 ・地震も備蓄する。足腰を鍛えておく。 ・防災食の日 ・（まちづくり）あいさつをする！ → コミュニティ ・町内会としての装備品を充実する。 ・防災マニュアルの作成 ・スタッフの緊急連絡訓練（告知なしで） 	<p>・災害時のライフラインの確保。</p>	<p>【地域での学習・ネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（まちづくり）みんなで考える → ネットワーク
3) その他				

	①すぐできること、やっていること		②できるだけ早く対策を考えるべきこと	
	【個人】	【地域】	【個人】	【地域】
1) 知る 学ぶ	【避難場所・知識・管理】 <ul style="list-style-type: none"> ・避難手段の把握 ・避難所を知る。 ・食料確保（量） ・どこで調達できるか。 ・避難場所の設備 ・地域での物品、食糧の調達手段 ・限定的であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所としての機能が可か不可かの点検と訓練。指導者としての心がまえ ・防災、災害への意識を高める活動が必要。この地域で起こりうる災害を予測して ・備えがあっても使えない。 ・不足を知る。 ・災害を想定した訓練等（石狩消防団） ・震災の最大規模の想定（H13.3月のM6.8が最大か？） ・最大被害の想定（地震、津波） ・想定が不十分 ・確かめる目で！ ・学校で行なう避難訓練は学校で起きた災害に限定しているので地域ぐるみの訓練が必要。 		
2) 準備 する	【不足を知る・目で確かめる】 <ul style="list-style-type: none"> ・食糧の備蓄 ・自家発電（個人レベル） ・災害時に必要な持ち出し品をバッグ1つにまとめておく。 ・家族で災害時の連絡方法を確認しておく。 ・個人災害を想定した最低限の備蓄、防災用品の準備 ・停電時の情報取得（長期） ・テレビなど情報ツール ・災害時の集合場所の設定 ・非常時の持ち出し。食料、電灯、ラジオ ・備えているものほとんどない。水の確保、電気の必要性？（昼間のみ） ・ラジオ手回し ・備蓄品（期限切れ） ・非常用発電まず確かめる 	【不足を知る・目で確かめる】 <ul style="list-style-type: none"> ・冬の備え ・電気なしストーブ 	<ul style="list-style-type: none"> ・名簿の情報が使えない 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【機能する組織】 <ul style="list-style-type: none"> ・機能する組織 ・組織をつくる ・災害時の町内会での組織形成 ・顔を合わせるきっかけ ・避難所（学校）との地域の連携 </div>
3) その他				